

「21世紀の医療と福祉を支える会」設立

この度、作業療法士、歯科技工士、診療放射線技師が中心になり医療福祉専門職能が結集した政治団体「21世紀の医療と福祉を支える会」を設立することになりました。

現在わが国の医療福祉政策には、政治家を輩出している四師会が強力に関与しています。しかし一部の職種だけでは国民全体の医療福祉の提供は困難です。国民はもとより医療福祉業務に関与する多くの専門職能が関係して、初めてバランスの取れた政策が実現するものと考えます。私たち医療福祉専門職の声をひろく医療福祉政策に反映させるべきです。私たちはこの会を通じて、次の三点の政策を提案しその実現に努めていくための事業を展開していく所存です。

一点目、医療の安全確保については一部の専門職能に責任が集中しています。この状況が安全確保を阻害する側面があります。この偏りを打開し適切な責任配分を実現すること、つまり真のチーム医療を実現することで医療安全確保は大きく改善されるものと考えます。そのためには、医療福祉専門職の養成教育制度を、責任を分担するにふさわしい高等教育制度に改革することが急務です。資格取得後の追加研修を含めその実現に向けて努力します。

二点目、医療経済の破綻が懸念されています。現在医療費の圧縮に眼が向いていて、極めて厳しい単純な医療費削減策がとられようとしています。「人命は金銭では計れない」との観点からもこの政策は正しくありません。医療技術の順調な発展向上や医療専門職の人的資源の充実向上を鑑みたとき、医療費圧縮政策の一点張りでは日本の医療技術の先細りを招きかねません。高度な医療技術は最先端総合科学の粋ですから相応の支出は当然と受け止めるべきでしょう。しかし同時に医療の効率を上げることによって医療費の無駄を省くことは可能です。そのためには、医療消費者である国民の医療教育を充実させて賢い医療消費者を増やすことで、経済効率の良い医療が展開できると考えます。

三点目、グローバルな視点では高度で普及できる医療技術はいまや“国際商品”の一つであるとの考え方があります。日本の医療技術を世界最先端に育てることで、次の時代の日本産業の隆盛に資することは可能でありこれを目指すべきです。そのための医療科学技術の開発と人材や企業の育成は重要ですから、関係の法的な整備を促進したいと考えます。

新しいフィールドができました。皆様方の「21世紀の医療と福祉を支える会」へのご理解ご支援をお願い致します。

(別 表) 発足時役員名簿

会 長	熊谷 和正	放射線技師
副会長	伊藤 宰	放射線技師
副会長	杉原 素子	作業療法士
副会長	中西 茂昭	歯科技工士
会計担当理事	国府田 知生	歯科技工士
理 事	小林 毅	作業療法士
理 事	杉井 伸行	歯科技工士
理 事	田城 邦幸	放射線技師
理 事	日垣 一男	作業療法士
理 事	八島 俊一	放射線技師
監 事	寺山 久美子	作業療法士
監 事	宮野 亮三	歯科技工士

(50 音順)

推薦状

中西茂昭殿

貴殿を次期参議院議員
比例代表選挙の候補者
として最適任であることを
認め推薦いたします

平成十八年一月吉日

二十世紀の医療と福祉を支える会

会長 熊谷和正

